

第十三回 令和7年「和田浦くじらゼミ」の概要

テーマ「それぞれ引き続き鯨を追う 和田浦に集う懲りない面々」

(1) タイムスケジュール

第一部：令和7年7月26日（土）13：00から16：00まで

場所：南房総市和田コミュニティセンター 2階会議室

12：30 受付開始

12：50 集合時刻

13：00－13：50 「星条旗の翻った海ー太平洋におけるヤンキー捕鯨の栄枯盛衰」
講師：赤嶺淳

13：50－14：00 質疑応答

14：00－14：20 「第51純友丸ミンククジラ操業乗船報告」
講師：西野嘉憲

14：20－14：40 「沿岸ミンククジラ漁の事業構造」 講師：庄司義則

14：40－14：50 質疑応答

14：50－15：00 休憩

15：00－15：50 「先住民捕鯨における米国のダブルスタンダード」
講師：西脇茂利

15：50－16：00 質疑応答

(以上で第一部は終了。その後、各自宿泊施設にチェックインしていただきます。

なお、上記の講義の内容は暫定的なもので、変更される可能性があります。)

第二部：懇親会の部 18：00－ 和田地域センター

第三部：7月27日（日）午前中 ツチクジラ解体作業見学（26日の捕獲がなく、解体作業がない場合は、第一部会場にて9：00－12：00座学の予定）

(2) 過去の「和田浦くじらゼミ」のテーマの変遷

第1回目（H21） 「房州のツチ鯨漁の歴史と現状、食文化について」

第2回目（H22） 「イワシとクジラの房州人」と「鯨の科学の実際」

第3回目（H23） 「沿岸漁村社会と捕鯨業の将来を問い直す」

—映画「The Cove」・妨害される南氷洋捕獲調査・被災した漁村社会を題材に—

第4回目（H24） 「万祝—房州発祥の漁民民芸の結晶—を鑑賞し、考える」

第5回目（H25） 「シロナガスクジラ（白長須鯨）のことを学びましょう！」

第6回目（H26） 「やはり、今回は国際捕鯨裁判を学びましょう！」

第7回目（H27） 「水族館のイルカ問題を起点に、人間と野生生物の関係を考えましょう。」

第8回目（H28） 「世話人 西脇茂利さんの還暦を祝して」

第9回目（H30） 「原点に戻り、ツチクジラを学び直しましょう！」

第10回目（R1） 「日本の商業捕鯨の再開について」

第11回（R5） 「温故知新＝日本近代の捕鯨史からその未来を考える」

題12回（R6） 「頻発する軋轢！今 人間と動物の関係性を考え直す」

なお H29 は外房捕鯨の事情に拠り、R2-4 はコロナ禍で実施できませんでした。

第十三回「和田浦くじらゼミ」参加者募集要項

テーマ：「それぞれ引き続き鯨を追う 和田浦に集う懲りない面々」

引き続き北国でのミンククジラ漁に従事。八戸にて今夏の「和田浦くじらゼミ」の準備をしています。既に全国的に概ね梅雨明け。でもカラ梅雨ということで、「早すぎる酷暑」の報道に接することが多いですね。一方で僕の関心事は「黒潮の大蛇行が終息の気配？」という話題。ネットで調べた範囲では太平洋北部沿岸域の表面海水温が昨年比2-3℃低く、逆に南部海域では高い。この現象はここ7年以上続いている「黒潮の大蛇行」が終息し、日本沿岸の海水温が従前の状態に戻る予兆なのではないか？当地八戸はここ数年のイカの水揚げ減少で疲弊。浜ではそんな期待と不安の入り混じった会話を耳にします。

想えば春の八戸操業を始めたのは令和2年。新しい漁場の発見もあって、昨年までは比較的安定した漁を続けることが出来ました。今年はどうも勝手が違う。思いの外、鯨の発見が少なく、要するに獲れない！まあ海水温が昨年比2-3℃低ければ、納得せざるを得ない。でも季節が進めば海水温は上昇し、発見が増えるのでは？そう期待しながら生活してきましたが、6月も残すところ僅か。残念ながら不漁は確定しました。こう書くと「黒潮の大蛇行の終息」は凶事とも言えそうだし、特に沿岸捕鯨は春・夏・秋がその漁期。出だしの春につまずくのはなかなかつらいものがあります。

一方でここ数年の秋の北海道太平洋岸での操業は海水温の上昇で酷い不漁でした。故にもし大蛇行が終息すれば、今秋の釧路沖の水温が低めに推移すれば、逆に今秋の捕獲は上向くかもしれない。そんな希望的観測もない訳ではない。そうですね、鈴木大拙が書いている様に「自然は依怙臆負をしない」もの。漁業者としてはそれをそのまま受け入れて、とりあえずは出来ることをする。それに尽きるのでしょうか。

という訳で思うままに八戸での近況なんぞを書いてしまいましたが、今夏の第13回和田浦くじらゼミのテーマをどう設定するか？僕自身は引き続き鯨を追う毎日。かといって船に乗る訳でなし、専ら市場に対してどのような方法で「食べ物としての鯨」を供給していくか、残された健康余命をその探求に捧げる覚悟。他の世話人たちも、それぞれの職責・興味関心に拠り、引き続き鯨を追っています。

それにしても、鯨・捕鯨というテーマは中毒性が強いようだ。僕はともかく、世話人達は性懲りもなく、鯨を追い続ける。またくじらゼミに参加される皆さんも、毎年夏になると性懲りもなく和田浦に参集する。このおかしな(?)人々によって形成されるちょっと知的な空間！今回はテーマを「それぞれ引き続き鯨を追う 和田浦に集う懲りない面々」とし、世話人それぞれの「追い方」を発表して貰い、それについて「ああでもない、こうでもない」と会話を愉しむ。そんな場にしたいと思います。以下、募集要項を掲示します。よろしくお願ひします。

以上

(1) 開催日時と募集人数 (一泊二日)

7月26日(土) 13:00から27日(日) 午前中 30名程度

(2) 参加費・お支払方法

参加費：1万3千円 (一泊2食+酒代込み。)

クレジット支払若しくは指定の口座に7月18日(金)までにお振込み下さい。

宿泊を伴わない参加も可能です。地元の皆さんが電車利用で夕食(交流会)まで参加が出来る様に、プログラムを調整しています。費用については、ゼミ参加費、交流会費、二次会費、宿泊費と個別に設定します。

※詳細は以下(9)項をご参照下さい。

(3) テーマ：「それぞれ引き続き鯨を追う 和田浦に集う懲りない面々」

講義の内容は、以下の「(7)項具体的なスケジュール」をご参照下さい。

(4) 申込方法

(ア) 以下のURLより申込フォームに入力



<https://asobitabi.enjoyboso.jp/program/detail.html?CN=383535>

※料金のお支払いについては申込フォーム入力時にクレジット決済と口座振り込みを選択できます。

(イ) 参加申込書をメール若しくはFAXで送付。

「参加申込書」を、パソコンに保存・必要事項を記入の上でメール送信、或いは印刷して必要事項を記入の上ファックス送信してください。申込書受領後確認のご連絡をさせていただきます。申込確定後下記口座へ参加費をお振込ください。

(一般社団法人 南房総市観光協会) メールアドレス tour@cm-boso.com

ファックス 0470-28-5309

電話 0470-28-5307

振込口座 千葉銀行 那古船形支店 店番号 223 普通 3251382

(ウ) 申し込み期限 : 7月16日(水)

参加費振込期限 : 7月18日(金)

※講座に関する問い合わせは：ネイチャースクールわくわくWADA (担当：平川)
電話番号は080-2558-0238、受付時間帯は 8:30-17:00です。
(電話でのお申し込みはできません)

(5) 集合時刻 / 場所

集合時刻：7月26日(土) 12:50 (12:30受付開始・13:00開講)

集合場所：南房総市和田コミュニティセンター 2階 会議室

※住所は「南房総市和田町仁我浦 206 番地」、TEL番号0470-47-3111です。

※南房総市和田コミュニティセンターの駐車スペースは、集合場所付近にあります。

(6) 宿泊先 (基本的に和田浦駅又は和田港の近くの民宿施設)

※「四季の宿じんざ」「花の宿安田」「醤油屋」等の複数の民宿に分宿していただきます。

参加者の部屋割りについては、NPO 法人ネイチャースクールわくわくWADAが、皆様が申し込み用紙の「宿泊に関する要望欄」に記入された要望を参考に調整します。

申し込み用紙の「宿泊に関する要望」欄にご要望等をご記入下さい。但し、「男女別の相部屋」が基本です。ご要望に沿えない場合も想定されますので、予めご了承下さい。

※各参加者の宿泊先、部屋割りについては、受付の際に個別に説明します。

(7) 具体的なスケジュール

第一部：7月26日(土) 13:00から16:00まで

場所：南房総市和田コミュニティセンター 2階会議室

12:30 受付開始

12:50 集合時刻

13:00-13:50 「星条旗の翻った海ー太平洋におけるヤンキー捕鯨の栄枯盛衰」
講師：赤嶺淳

13:50-14:00 質疑応答

14:00-14:20 「第51純友丸ミンククジラ操業乗船報告」 講師：西野嘉憲

14:20-14:40 「沿岸ミンククジラ漁の事業構造」 講師：庄司義則

14:40-14:50 質疑応答

14:50-15:00 休憩

15:00-15:50 「先住民捕鯨における米国のダブルスタンダード」
講師：西脇茂利

15:50-16:00 質疑応答

(以上で第一部は終了。その後、各自宿泊施設にチェックインしていただきます。

なお、上記の講義の内容は暫定的なもので、変更される可能性があります。)

(ア) 7月26日(土)の和田浦への公共交通機関について

(電車) JR 館山駅発(上総一ノ宮行き) 11:40発 和田浦12:05着

JR 安房鴨川駅発(木更津行き) 12:02発 和田浦12:18着

(東京からの便) JR の特急列車の便もありますが、東京駅またはバスタ新宿発の館山及び鴨川行き的高速バスが概ね1時間に1本運行されており、便利です。

(イ) 第二部：交流会の部

18:00-21:00 交流会(和田地域センター)

皆さんと一緒にツチクジラやミンククジラ等の多様な部位を食べながら交流しましょう。

21:00ー 二次会

(会場については「花の宿安田」です。追って参加人数を制限する可能性があることをお含み置き下さい。又、参加者と不参加者の公平性の確保と昨今の諸経費増の穴埋めに些少なから貢献したいとの観点より、1000円/人のカンパにご協力いただけますと幸いです。その徴収は、当日二次会会場にて行います。)

(ウ) 第三部：7月27日(日) 正午までに終了

*本来「和田浦くじらゼミ」は週末の土日に実施し、もし土曜日にツチクジラが獲れば、翌日曜日の早朝にその解体作業を見学する仕組みとなっています。従いまして、セミナー2日目の27日(日)は、前日鯨が獲れた場合には早朝から解体見学。

獲れなかった場合は27日(日)の午前中に座学形式のセッションを実施します。

*26日(土)夕刻に、27日(日)午前のセッションの集合時刻を連絡します。

*27日(日)は、正午までには閉会・解散とします。

(8) 7月26日(土)の懇親会終了後の電車の時刻について

日帰り参加も可能です。晩の交流会にもご参加下さい。ツチクジラやミンククジラ等の様々な部位を皆さんと一緒に食べながら交流したいと思います。

なお、和田浦駅発の最終の電車は以下の通りです。

館山方面最終電車 21:33 (木更津行) 館山着 22:02

安房鴨川方面最終電車 22:02 (安房鴨川行) 安房鴨川着 22:17

(9) 参加費に関する諸規定 (税込)

全日程参加費 13,000円

(明細)

・ゼミ参加費(保険料500円を含む) 2,500円

・一泊朝食付宿泊費 6,000円

・交流会(夕食)費(酒代込み) 4,500円

(二次会参加者カンパ 1,000円/人(別途当日二次会会場にて徴収))

(10) セミナーの実施主体

このセミナーはNPO法人ネイチャースクールわくわくWADAの主催です。

以上

(メールでの申し込み先アドレス) : tour@cm-boso.com

(ファックスでの申し込み先番号) : FAX: 0470-28-5309

申し込み日 令和7年 年 月 日

第13回 和田浦くじらゼミ参加申込書 (※参加される方全員についてご記入ください。)

1. 氏名と生年月日、性別(保険加入、部屋割りに必要となります) :
2. 住所 : 〒
3. 電話番号 :
4. 7/26(土)の宿泊について ※該当するものを○又は()で囲んで下さい。
宿泊する 日帰り参加
5. (「宿泊する」に○の方)、部屋割り等につき、要望事項を記入してください。
(例:AさんとBさんとCさんで一部屋をお願いしたい。)
6. 参加する行事 ※参加・不参加について、該当するものを○又は()で囲む

(月日)	(項目)	(時間帯)	(場所)	(参加・不参加)
(ア) 7/26(土)	セミナー	13:00-16:00	南房総市和田コミュニティセンター	(参加・不参加)
(イ) 7/26(土)	交流会	18:00-21:00	南房総市和田コミュニティセンター	(参加・不参加)
(ウ) 7/26(土)	交流会二次会	21:00—	「花の宿安田」 1000円/人	(参加・不参加)
(エ) 7/27(日)	セミナー	9:00頃—12:00	南房総市和田コミュニティセンター	(参加・不参加)
7. 交通手段
(ア) 自家用車 (イ) バス・電車等公共交通機関 (ウ) その他(具体的に)

・宿泊される方には、別途詳細をご連絡いたします。

※集合場所の住所は「南房総市和田町仁我浦 206 番地」、Tel番号0470-47-3111です。

カーナビご利用の方はこの住所又はTel番号を入力して下さい。

・ご不明な点がありましたら、Tel080-2558-0238・ネイチャースクールわくわくWADA(担当:平川)までお問合せください。